

1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

五月のよく晴れた朝、ぼくは登校班の集合場所へと急いでいた。昨夜の宿題が思ったより時間がかかってしまい、少し寝不足だった。集合時間まで残り五分。走れば間に合う、と思ったそのときだった。公園の前を通りかかると、ブランコのところに、見慣れない小さな男の子が立っていた。幼稚園くらいだろうか。泣きそうな顔で、靴ひもを見つめていた。見ると、片方の靴ひもがぐちゃぐちゃに結ばれていて、もう片方はほどけて地面にひきずっていた。

——どうしよう。

ぼくは足を止めた。時間はぎりぎりだ。ここで手伝え、登校班には間に合わないかもしれない。班長の山田さんはとてもきびしい。遅れたら怒られるだろう。でも、このまま行ってしまうたら、この子はきっと困ったままだ。

心臓がドキドキした。どうするべきか、ぼくには判断がつかなかった。

そのとき、男の子が「うう……」と声をもらした。目にうつすら涙が浮かんでいるのが見えた。ぼくは深く息を吸い、心の中で「えいっ」と決心した。

「どうしたの？ 靴ひも、結べないの？」

声をかけると、男の子は小さくうなずいた。よく見ると、ひもが固く結ばれていて、なかなかほどけない。ぼくはしゃがみこんで、ゆっくりとひもをほどき、ほどけている方も結び直してあげた。

「ありがとう……」

男の子は安心したように笑った。ぼくもつられて笑った。

しかし、ふと時計を見ると、集合時間をすぎている。ぼくはあわてて公園を飛び出した。角を曲がると、ちょうど登校班が発したところだった。

「あっ、待って！」

ぼくが叫ぶと、班長の山田さんが振り返った。

「遅いよ！ どうしたの？」

ぼくは息を切らしながら事情を話した。すると山田さんは、少し驚いた顔をして、

「そうだったんだ。困っている子を助けたんだね。それなら仕方ないよ」

と言ってくれた。他の友だちも「すごいじゃん」「えらいよ」と声をかけてくれた。ぼくはほっとしながらみんなと歩き出した。

でも、心の中にはまだモヤモヤが残っていた。本当にこれでよかったのだろうか。もっと早く家を出ていれば、悩まなくてもよかったのに……。

学校に着くと、担任の先生が昇降口に立っていた。ぼくを見るなり、「おはよう。今日は少し遅かったね」と声をかけた。

ぼくは、公園でのことを先生にも話した。すると先生はゆっくりうなずいてこう言った。

「困っている人を見たときに、ただ見ているだけの人もいる。でも、助けようと思って行動できる人は、もっと少ないんだよ。あなたの行動は、とても大切なことだよ」

先生の言葉を聞いて、胸のモヤモヤがずっと消えていくのを感じた。

帰り道、ぼくはまた同じ公園の前を通った。朝の男の子の姿はなかったけれど、あのとき笑ってくれた顔が浮かんだ。「ぼくにできること」を、あの瞬間に選べたこと。それが、なんだか誇らしく思えた。

そして、もしかた誰かが困っていたら——

今度は迷わずに手を差し伸べよう。ぼくはそう心に決めて、家へと歩きだした。



(1) 次の出来事を起こった順に並べかえなさい。

- ① 困っている男の子の靴ひもを結んであげるか迷う。
- ② 集合時間を気にしながら、公園で立ち止まる。
- ③ 男の子の靴ひもを結んであげ、笑顔を見る。
- ④ 登校班に遅れながらも、学校へ向かう。



(2) 主人公が「助けるかどうか迷った」心理として、文中から最もふさわしいものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 公園の子を助けても時間がかかり、遅刻して怒られるかもしれない不安があったから
- ② 道を急ぐほうが大事で、困っている人は関係ないと思ったから
- ③ 靴ひもを結ぶことは自分にはできないと思ったから
- ④ 男の子のことより、宿題が終わっていないことを優先したから

(3)

主人公が男の子の靴ひもを結んであげた後、主人公の心の中にどのような葛藤が生まれましたか。文章を根拠に五十文字以内で書きなさい。

(4)

登校班に追いついたとき山田さんの発言について、本文の内容と正しければ○、ちがっていれれば×をつけなさい。

- () 困っている子を助けたのだから、遅刻しても仕方ないと言った。
- () 主人公を怒って注意した。
- () 事情を聞いたうえで理解してくれた。
- () 何も言わず無視した。

(5)

担任の先生の言葉を聞いた主人公の気持ちを表す慣用句として、最も適切なものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 胸を打たれる
- ② 肩の荷が下りる
- ③ 腹に据えかねる
- ④ 足がすくむ

(6)

物語の最後で、主人公は「今度は迷わずに手を差し伸べよう」と考えました。この考えに至った理由を、行動の結果と心の成長を含めて五十文字以内で書きなさい。

(1) 次の出来事を起こった順に並べかえなさい。

- ① 困っている男の子の靴ひもを結んであげるか迷う。
- ② 集合時間を気にしながら、公園で立ち止まる。
- ③ 男の子の靴ひもを結んであげ、笑顔を見る。
- ④ 登校班に遅れながらも、学校へ向かう。

④ ↓ ② ↓ ① ↓ ③

(2) 主人公が「助けるかどうか迷った」心理として、文中から最もふさわしいものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 公園の子を助けても時間がかかり、遅刻して怒られるかもしれない不安があったから
- ② 道を急ぐほうが大事で、困っている人は関係ないと思ったから
- ③ 靴ひもを結ぶことは自分にはできないと思ったから
- ④ 男の子のことより、宿題が終わっていないことを優先したから

(3)

主人公が男の子の靴ひもを結んであげた後、主人公の心の中にどのような葛藤が生まれましたか。文章を根拠に五十文字以内で書きなさい。

解答例)

助けたことで登校班に遅れるかもしれない不安と、困っている子を見捨てられない気持ちの葛藤があった。

(4)

登校班に追いついたとき山田さんの発言について、本文の内容と正しければ○、ちがっていれば×をつけなさい。

- (○) 困っている子を助けたのだから、遅刻しても仕方ないと言った。
- (×) 主人公を怒って注意した。
- (○) 事情を聞いたうえで理解してくれた。
- (×) 何も言わず無視した。

(5)

担任の先生の言葉を聞いた主人公の気持ちを表す慣用句として、最も適切なものを選び番号を○で囲みなさい。

- ① 胸を打たれる
- ② 肩の荷が下りる
- ③ 腹に据えかねる
- ④ 足がすくむ

(6)

物語の最後で、主人公は「今度は迷わずに手を差し伸べよう」と考えました。この考えに至った理由を、行動の結果と心の成長を含めて五十文字以内で書きなさい。

解答例)

困っている子を助けたことで人の役に立つ喜びを感じ、次は迷わず手を差し伸べようと考えた。